

## ポスト 2020 目標に関する意見交換の概要

COP14 結果報告会においてポスト 2020 目標に関する意見交換を進めており、その中で指摘のあった事項は以下のとおり。

### A 各政府と各社会において生物多様性を主流化することにより、生物多様性の損失の根本要因に対処する。

- ・ 企業トップ等による自主的コミットメントの公表
- ・ 企業活動における非財務情報等開示（資源利用量・廃棄物の削減、自然資本勘定・会計等）
- ・ 個人～企業まで生物多様性のために何に取り組めば良いのか分かり易い目標設定
- ・ 民間セクターへの生物多様性の主流化に法的枠組みが必要とする国もあるかもしれないが、日本においては自主的な取組を進めてきており、自主的なものでないとこれからも長続きしない
- ・ 先進的な取組より、裾野の拡大
- ・ トップダウン、上意下達型の目標よりも、ボトムアップを推進する目標を重視すべき

### B 生物多様性への直接的な圧力を減少させ、持続可能な利用を促進する。

- ・ 持続可能な消費に関する消費者向けの働きかけの充実
- ・ 持続可能な調達を進める認証制度やトレーサビリティ等の価格以外の環境に関する情報提供の充実
- ・ 生物多様性の危機に関する要因毎の対策強化
- ・ エコロジカル・フットプリント

### C 生態系、種及び遺伝子の多様性を保護することにより、生物多様性の状況を改善する。

—

### D 生物多様性及び生態系サービスから得られるすべての人のための恩恵を強化する。

- ・ 人権への配慮
- ・ 気候変動対策との相乗効果（生態系を活用した適応策(EbA)、自国が決定する貢献(NDC)等）
- ・ 他の環境条約等との連携強化

### E 参加型計画立案、知識管理及び能力構築を通じて実施を強化する。

- ・ 自然体験活動の充実

### その他

- ・ SDGs との関係強化

- SDGs と生物多様性目標の関係について分かりやすく情報提供して欲しい
- 2050 年ビジョンや愛知目標の良いところを残すよう
- 遺伝資源や食料生産など、資源問題も念頭に置く
- 気候変動ではトップダウン的な京都議定書からボトムアップ的なパリ協定に大きく変容し、人々を惹きつけた。ポスト 2020 目標でも人々を惹きつける新しさが必要

## 【COP14 結果報告会の実施状況】

### <企業関係>

- 日経 ESG 経営フォーラムの研究会「生物多様性 COP14 と自然資本会合の成果」(2018/12/13)
- 産業と環境の会「生物多様性 COP14 の概要と成果」(2018/12/18)
- 環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) (中部地域の産業界) (2018/12/19 名古屋)
- 経団連自然保護協議会企画部会 (2018/12/20)

### <NGO 等>

- 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J) 「COP14 報告会」(2018/12/18)

### <研究者>

- 環境研究総合推進費 S14 関係 (2018/12/15 東京)
- 総合地球環境学研究所「ポスト愛知目標を関連する条約の最新動向から考える」(2019/1/15 京都)

※なお、今後も COP14 報告会を含め様々な形での意見交換を行う予定。